

# 製本のススメ

Vol. 49

もうすぐ雛祭りですね。菜の花便りが届き始めると、いよいよ春の到来です。ポカポカ陽気に景気も浮かれてくれると良いですね～

今回は紙選びのお話

顧客のイメージにより、使う用紙も様々ですが、ここでは製本の立場から、冊子作りには不向きな紙の条件をお話しましょう。

まず初めに**糸目**です。これは全ての用紙で殆どの製本工程に影響が出ます。紙目を制するものは加工を制すると言っても過言ではありません！冊子の場合には**本になった時に天地方向へ紙目が流れているように**、用紙の紙目を決めます。

例えば8頁の本文を印刷する場合には、T目の用紙を使えば4つ折をした時点で紙目は冊子の天地方向に流れています。16頁の本文ならばY目の用紙を使えば八つ折した時点で、やはり折丁は冊子の天地に順目で流れていますね。

折・丁合い加工で進む冊子の場合、折り易さにも影響が有り紙に大きな負担を掛けずに折りを進める事ができ、結果綺麗な折上がりに結びつきます。また表紙や見返し等では仕上がりの良さに格段の影響が出ます。特に上製本では顕著に現れますので紙目は極めて重要なポイントです。ダイレクトメール等のように折だけで加工が終わる物であっても最初に折る部分の紙目は合わせておいたほうが、出来上がりが綺麗です。

次は**用途**です 製本加工に接着剤は欠かせません。この接着剤には水分があり、これが用紙に大きく影響します。ミラーコート等は糊の水分が滲みでて変形します。また新だん紙のように、シワを用紙の柄にしている紙では、**湿気でシワが伸びて**いきます。これらは**紙目に関係なく起こってしまう不具合**ですので、製本方法によっては使用を避けるべきと言えます。特にクルミ表紙や見返しには不適合な用紙の代表ですので、安易に選ぶべきではありません。しかしながら、見た目の風合いも良く、顧客から譲れない条件と指定されれば、やむを得ませんね。その際には損紙の枚数や加工時間に十分なゆとりが必要です。



## Teabreak

「あなたのお客さんになりたい」という本の中に【ちょっと嬉しい!の積み重ね】と書いてありましたが、小さな感動は大きな実用に勝ると言ってもよいでしょう。お客様の立場たったアドバイスは何よりも優れたサービスと言えます。皆さんがお客様から任せて安心と言ってもらえる様に「製本のススメ」はちょっと役立つ！を沢山盛り込んで次回は50回です。

by (株) 井関製本